

# 2019年度 夙川中学校入学試験

## 国 語

### 第 4 回

(注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、  
受験番号と氏名を記入しなさい。

1. すべての問題を解答しなさい。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 字数制限のある問題については、記号、句読点も1字と数えること。
4. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

学校法人 須磨学園 夙川中学校

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「森さんはヤラセをやったことはありますか？」と時おり訊ねられる。そんなとき僕は、その質問をした人が、どんな意味でヤラセという言葉を使ったのかを訊き返すようにしている。

事実でないことを捏造する。これがヤラセだ。その多くには、みんなから注目されるとか評判になるとかの見返りがある。ただし、その判定は実は簡単ではない。事実は確かにある。でもその事実をそのまま皿に載せても食べづらい。というか皿に載らない。だからみんなが喜んで食べてくれるように調理をする。切り刻む。余分だと思えば捨てる。これが演出だ。

ヤラセと演出のあいだには、とても曖昧で微妙な領域がある。そんなに単純な問題じゃない。でも報道したりドキュメンタリーを撮ったりする側についてひとつだけ言えることは、自分が現場で感じとった真実は、絶対に曲げてはならないということだ。そして同時に、この真実はあくまでも自分の真実なのだを意識することも大切だ。同じ現場にいたとしても、感じることは人によつて違ふ。

つまり胸を張らないこと。負い目を持つこと。  
注3 メディアやジャーナリズムにおいては、これがとても重要だと僕は考える。自分は決して客観的な事実など伝えていない。自分が伝えられることは、結局のところは【※】な真実なのだ。そう自覚すること。そこから出発すること。だからこそ自分が現場で感じたことをアインに曲げたり変えたりすり替えたりしないこと。

たった一つの真実を追究します。  
こんな台詞を口にするメディア関係者がもしいたら、あまりその人の言うことは信用しないほうがいい。確かに台詞としてはとてもかっこいい。でもこの人は決定的な間違いをおかしている。そして自分がその間違いをおかしていることに気づいていない。

真実はひとつじゃない。事実は確かに一つ。ここに誰かがいる。誰かが何かを言う。その言葉を聞いた誰かが何かをする。たとえばここまでは事実。でもこの事実も、どこから見るかで全然違ふ。つまり視点。  
X 事実は、限りなく多面体なのだから。

あなたのクラスの授業。カメラをどこに置くかで見えるものはまったく違ふ。先生の立っている場所にカメラを置く場合と、クラスの問題児の席のすぐ傍にカメラを置く場合とで、世界はまったく変わる。世界は無限に多面体だ。

物事にはいろんな側面がある。どこから見るかでまったく変わる。あなたは普段、父親や母親の言いつけをよく守る子供であるとする。  
Y 今日夕ご飯を食べながら、「最

近あまり勉強していないんじゃない？」と母親に言われて、思わず口答えをしてしまったとする。このときの口答えの理由は何だろう。

ある人は、「あの子は最近お母さんが口うるさいと思っていらいらしていたんだよ」と言う。また別の人は、「自分ではやっているつもりだったから、お母さんはわかってないと思ったんだ」と言う。またもう一人の人は、「実は最近、自分でも確かに勉強時間が足りないと思っていたので、つい反抗してしまったんだよ」と言う。「別の心配事があってそれが気になっていて、思わず口答えしてしまったのさ」と説明する人もいるかもしれない。

あなたの本当の心情は僕にはわからないけれど、でも少なくとも、どれかひとつだけが正解であとは全部間違っているということはないんじゃないかな。事件や現象は、いろんな要素が複雑にからみあつてできている。どこから見るかで全然違ふ。

さまざまな角度の鏡を貼り合わせてできているミラーボールは、複雑な多面体によつてコウセイされる【I】と喩えることができる。でもこれを正確にありのままに伝えることなどできない。だからメディアは、どれか一点の視点から報道する。それは現場に行った記者やディレクターにしてみれば、【II】ではないけれど（自分の）【III】なのだ。

視点を変えれば、また違ふ世界が現れる。視点は人それぞれで違ふ。  
Z 本当は、もっといろんな角度からの視点をメディアは呈示するべきなのだ。いや、呈示されるはずなのだ。

でもフシギなことに、ある事件や現象に対して、メディアの論調は横並びにとても似てしまう。なぜならその視点が、最も視聴者や読者にシジされるからだ。

だからあなたに覚えてほしい。事実は限りなく多面体であること。メディアがデイキョウする断面は、あくまでもそのひとつでしかないということ。もしも自分が現場に行つたなら、全然違ふ世界が現れる可能性はとても高いということ。

（森達也『たったひとつの「真実」なんてない』による）

注1 捏造：…実際にはないことを、あるようにつくりあげること。

注2 ドキュメンタリー：…実際にあったできごとの記録を中心につくられた作品。

注3 メディア：…情報を伝達する手段。

注4 ジャーナリズム：…時事的な問題の報道・批評などを伝える活動。また、その機関。

注5 ディレクター：…番組制作の責任者。

一の設問

問一 線部 a ～ e を適当な漢字に直して答えなさい。

- a アンイ                      b コウセイ                      c フシギ
- d シジ                            e テイキョウ

問二 X ～ Z に入れるのに最も適当な語を次の

中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。ただし、同じ語を二度使つてはいけません。

- 1 さて                            2 でも                            3 なぜなら
- 4 もちろん                      5 だから                      6 あるいは

問三 【※】には「客観的」(線部)の反対の意

味を表す語が入ります。適当な語を漢字三字で答えなさい。

問四 「ヤラセと演出のあいだには、とても曖昧で微妙な領域がある」(線部ア)とありますが、「ヤラセ」

と「演出」の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 前者は事実にはないことを勝手に作ることだが、後者は情報を取捨選択して編集することである。
- 2 前者は受け手が情報を受け取りやすくするものだが、後者は周囲から見返りを求めるものである。
- 3 前者は意図せずに情報の受け手をだますものであり、後者は「ヤラセ」に含まれるとも言える。
- 4 前者と後者はどちらもすでにある事実に加えるという点で、区別が難しいことがある。

問五 「世界は無限に多面体だ」(線部イ)とありま

すが、この例として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 銀メダルをとった選手が泣いているのは、うれしいからだとも、くやしいからだとも考えられる。
- 2 事件がテレビで報道されるときは映像と音声とがあるが、ラジオで報道されるときは音声しかない。
- 3 発展途上国も先進国もどちらも等しく国際連合に加盟する資格がある。
- 4 日本では共通語のほか方言が使われるが、カナダでは公用語が英語の地方とフランス語の地方がある。

問六 「どれかひとつだけが正解であとは全部間違っている

ということはないんじゃないかな」(線部ウ)とありますが、なぜそう言えるのですか。その理由の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 事実は多面体なので、見る角度や方向によって現れる図形が変わるから。
- 2 いろんな要素が複雑にからみあって、正しい見方ができないから。
- 3 同じ事件や現象でも、視点を変えることによって見え方も変わるから。
- 4 正しい見方は一つだけだが、その見方は視点によって変わるから。

問七 【Ⅰ】～【Ⅲ】に入る語の組み合わせとして最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- |   |      |      |      |
|---|------|------|------|
| 1 | Ⅰ 真実 | Ⅱ 真実 | Ⅲ 事実 |
| 2 | Ⅰ 真実 | Ⅱ 事実 | Ⅲ 事実 |
| 3 | Ⅰ 事実 | Ⅱ 真実 | Ⅲ 事実 |
| 4 | Ⅰ 事実 | Ⅱ 事実 | Ⅲ 真実 |

問八 「ある事件や現象に対して、メディアの論調は横並びにとっても似てしまう」(線部エ)とありますが、

このようなことを防ぐために、どのようなことを意識して制作することが大切だと筆者は述べていますか。本文全体をふまえて、五〇字以内で説明しなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

山奥に、貧しい村があった。そこへ行く道も歩きにくいので、<sup>注1</sup>行商人が年に何回か訪れるだけ。

べつにもうけもないが、一種の同情で行くようなものだ。たまに、大きくて丸い栗の実といったものが、手に入る世の中には、変った物を食べると長生きできると信じている金持ちもいるので、損ばかりではない。

その村の、一軒の家に少女がいた。畑や林で働くので、哀れな姿。しかし、顔つきは美しいようだった。

「きれいな娘になるだろうな」

みなが、そう言う。しかし、<sup>1</sup>貧しいので鏡がなかった。あつたとしても、金属面をわざわざ磨く手間も惜しい。

水にうつそうにも、小川では水面が乱れ、水を入れる大きな容器もない。なにかにうつせたとしても、化粧してなければ、さほどに感じなかったろう。ここでは **X** のほうが、価値を持っていた。

しかし、行商人たちは、それをみとめた。たまに出かける二人の男が、話しあつた。

「村のあの子は、美人だな」

「めつたにいない。よ、これを落とし、いい着物で飾ればね」  
うわさは領主の耳に入り、連れてくるよう依頼された。

「そのため金は、用意した。両親に承知してもらい、当人のなつとも得た上でな。この屋敷で働いてもらいたいのだ。無理には、あとがやりにくい」

二人の行商人は、村へ出かけ、交渉した。領主の話だから、でたらめではないだろう。この二人は、何回も来ている。信用していい。娘も行ってみたいという。

そして、領主のいる町まで来た。商人たちは、娘をお湯に入らせ、<sup>注2</sup>髪結いに化粧を手伝わせ、美しい着物をまわせた。

「考えていた以上だ。まさに、はじめて見る美しさだ」

上等の鏡を渡すと、娘はのぞき込み、うれしそうだった。三日ほど、初歩的な礼儀作法を教え、領主の屋敷へ連れていった。

「いかがでしょう」

領主は、うなずいた。

「大声で叫びたいね。<sup>注4</sup>領内でとれた **Y** と。仕えても  
らいたいが、まずは生活になれてもらわねばならない。なにもなくていい。しばらく、ここで……」

というわけで、屋敷のなかで一室を与えられ、上等な食事も出された。ほかの人たちとつきあい、落ち着いた気分になつてもらいたい。つまらぬ意地悪をしないよう、注意してある。

怒られるのを覚悟で、いじめたりする者はいなかった。

また、いじめようもなかった。部屋から出たがらないのだ。鏡をのぞきつづけ、領主が近よって声をかけると、頭を下げるだけ。

ようすを見に商人が訪れたが、戻って仲間に、こう話した。

「どうも、ぐあいがおかしい。<sup>b</sup> あいさつしても、返事がいかげん。鏡に魂を吸い取られつつあると聞いていい」  
「日に当ることも、ないらしいしね。屋敷の世話役の話だと、運動しないせいとか、少しふとり、活気がなくなり、顔にしまりがなくなつたとか。急に生活を変えすぎた。村に帰すのがいいのだろうが、その気になるまい」

やがて、領主も関心が薄れた。商人たちを呼んで言った。  
「うまく、いかないようだ。生きている、お人形だ。礼はする。村に帰すが、なにか方法を考えてくれ」

<sup>ウ</sup>娘は屋敷から出された。それからのことは、よくわからない。

村に戻りたくなければ、言う通りにしろと、商人のひとりが自分の妻にしまったともいう。着物は売り払い、髪結いにも行かせず、化粧もさせない。鏡も近くには置いてない。少し、もとの気分にかえつた。

子供がうまれる。子育てに熱中し、しあわせな人生をすごしたという。といつても、妻の美しさを他人に自慢できない亭主は、そう楽しいものではなかつたろう。友人の商人も、うらやむより同情したかもしれない。

どこかに、ありそうな話ではないか。

(星新一「鏡」(新潮文庫刊『つねならぬ話』所収)

注1 行商人：店を持たず、商品を持って売り歩く人。

注2 髪結い：髪の手入れをする人。また、その場所。

注3 まとわせた：着せた。

注4 領内：領主が支配している土地の中。

二の設問

問一 線部 a・b の語句の意味として最も適当なもの

の後からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

a 「つまらぬ」(つまらない)

- 1 わずかな
- 2 くだらない
- 3 むだな
- 4 退屈な

b 「ぐあいがおかしい」

- 1 体調が悪い
- 2 態度が失礼だ
- 3 ことがうまく進まない
- 4 結果が予想以上だ

問二 X・Y に入れるのに最も適当な語句を後か

らそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

- 1 美意識や健康
- 2 お金や学力
- 3 知識や誠実さ
- 4 労働力や器用さ

Y

- 1 不思議な謎だ
- 2 未知の産物だ
- 3 最高の宝だ
- 4 雲の上の存在だ

問三 「年に何回か訪れるだけ」(線部ア)とありま

すが、行商人はなぜ「貧しい村」を訪れるのですか。

その理由の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 村人をさびしがらせないようにするためであり、また、そこで金持ちに商品を売ってもらうため。
- 2 村人が生活に困らないようにするためであり、また、めずらしいものを手に入れて自分のもうけとするため。
- 3 自分が行かなければほかの商人が行くことになるのが申し訳なく、また、美しい娘に会えるため。
- 4 村人が生活に困るとかわいそうだと思うためであり、また、必ず変わったものが手に入るため。

問四 「貧しいので鏡がなかった」(線部イ)とあり

ますが、鏡をめぐる少女の心情の変化の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 自分の外見に無関心だったが鏡を見て自分の美しさを知ると、鏡に夢中でほかに関心を示さなくなった。
- 2 初めて鏡を見たときは、自分の美しさにうっとりしたが、次第に鏡に映る自分の美しさになれてしまった。
- 3 商人と結婚した後は生活のために鏡を見ることもなく働き、そんな自分を美しいと思うようになった。
- 4 鏡の無い貧しい生活にも、領主の屋敷での鏡のあるぜいたくな生活にも不満を感じていた。

問五 「娘は屋敷から出された」(線部ウ)とありま

すが、領主はなぜ娘を屋敷から出したのですか。その理由を六〇字以内で説明しなさい。

問六 本文中の表現について説明したものと誤っている

ものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 疑問を投げかけた終わり方にあることによって、読者に物語を身近に感じさせている。
- 2 短い会話文や主語を省略した表現によって、話をテンポ良く進めている。
- 3 場所や人物名を特定しないことによって、どこにもある話のような印象を与えている。
- 4 娘のその後の人生を最後に描くことで、娘の一生についてはつきりと読者に伝えている。

